

これからの自分について 3年董組 T. N

私は中学3年生になるにあたり、自分について考えてみました。恵泉に入学した頃は、自分の意見は何も言えず、人に合わせてしまったり、心配性であり積極的ではありませんでした。でも、それは今も一緒に、私自身ではあまり変化していないと思います。なぜなら、今も自分の意見を人に言うということは苦手ですし、よく人に合わせてしまいます。そしてやっぱり心配性で、どうしてもいい事ですぐ悩み、よく家族に迷惑をかけています。今、私は恵泉生として3年目になるにあたり、しっかりと自分の考えを持ち、人の意見に流されて合わせるのではなく、自分の意見を口にだして言えるように、少しずつでもできるようにしたいです。そして、もっと自分に自信を持てるようになり、何事にも積極的に取り組んでいきたいと思います。

先日、教会学校の礼拝で牧師先生が、ヨハネによる福音書16章33節「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」この聖句の解き明かしをしてくださいました。牧師先生はお話しの中で、4月の新学期のことをお話ししてくださって、その中で「4月は、新しいことが始まる不安の時に、勇気がある時でもある。」とおっしゃっていました。私はそれを聞いた時、すっと言葉が入ってきました。私は新学期を目前にして、友人の事や勉強の事、いろいろな事に不安を感じていたのも、皆同じように思っているのだと知り、少しだけほっとしました。牧師先生は最後に「聖句にある『私は既に世に勝っている』というのは、神様が私たちにのがれる道を備えてくださっているのだから、恐れなくていい、逃げない勇気を出しなさい。」と教えてくださいました。私はこのお話しを聞いた時、私の好きな聖句とこの聖句が似ているなと思いました。

私の好きな聖句は、コリントの信徒への手紙I 10章13節「あなたがたを襲った試練で、人間としてたえられないようなものはなかったはず。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練にあわせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、のがれる道をも備えていて下さいます。」というものです。この聖句は、私が母から教えてもらったもので、母が友人から贈られた大切な聖句だそうです。私は、この聖句を見ると、自分に耐えられない試練はないし、あったとしてもきっと大丈夫と思うことができます。そして、私たちは神様に愛されているんだと思うこともできるので、この聖句がとても好きです。

ヨハネの聖句とコリントの聖句、この2つの聖句の共通点は、神様はいつも私達を勇気付け、悩みの中にいる私達を引っ張り、寄りそって下さるところです。両方の聖句から神様の優しさを感じることができます。そして、どんなこ

とにも恐れずに、逃げずに立ち向かっていきなさいと教えて下さっています。

3年生になる今、この2つの聖句を心にとめ、何ごとにも立ち向かう気持ちを持って、新しい自分を見つけていきたいと思います。すなわち、強い自分の意思を持ち、いやなものはいや、いいことはいいという勇気を持つこと。でも思いやりは忘れないこと。部活も変わったので、新しい部活の中で、しっかりと自分のやりたい事にチャレンジしていくこと。苦手な英語を頑張ること。など、自分に少しずつでも自信を持って、積極的に中学生最後の1年を過ごしていきたいと思います。